

経済学の出題予想・全体構造

全体的な出題傾向

今年は特に論点になった経済問題が見当たらない。

あえて挙げれば「年金問題」である。そのことをふまえればミクロでは「所得効果」、マクロでは「貯蓄」に絡めた需給関連の出題となる。(もちろん、貯蓄をからめた応用問題としては経済成長論などもある。)

現在の他の試験種を見ても、昨年までの「これが出る！」とハッキリと指摘できない分、予備校の戸惑いは隠せない。

ミクロ経済学

(1) 過去において消費者行動からの出題があまりに多く、最近、鑑定士をはじめ多くの試験種では見放されざりみであったが、今年はどの試験種でも大きくクローズアップされている。

特に、税金や年金といった所得変化や価格変化が消費にどのように影響を与えるかというオーソドックスな基本論点を明示することを問われている。

(2) 須田試験委員のご専門であるゲーム理論は未だ鑑定士試験では出題されていない。ズバリ、ゲーム理論では、100点か0点かの答案のどちらかになる可能性が高いので、ゲーム理論の周辺部からの出題が濃厚である。

ひとつは、寡占市場における企業の行動(屈折需要曲線、参入阻止理論)や製品差別化という点からは独占的競争市場なども考えられる。

(3) 市場の失敗のテーマからの出題は、鑑定士2次試験では必須である。

公共財のテーマがしばらく出題されていないのが気になります。

また、独立行政法人問題などをふまえて、費用逓減産業からの出題も予想されます。

マクロ経済学

(1) 酒井試験委員の研究テーマを考えれば、金融政策からの出題が第一に予想される。他の試験種でも、貨幣需要の論争、流動性のわな、量的緩和政策など昨年は花形であった。今年も引き続き、貨幣需要のテーマ(フィッシャー交換方程式、ケンブリッジ残高方程式、ケインズの流動性選好説・流動性のわなの論点、トービンの貨幣需要仮説など)は見落とせない。

(2) 国債発行についても、昨年同様、重要論点である。

特に国債の個人購入がスタートし、個人が国債を購入した場合の効果が狙い目となる。

(3) 失業問題は最近クローズアップされていないが、物価と失業も論点も気になります。

